

日本銀行
常務事務所長

齊藤 徹



「いま、友人と近くに旅行に
来ているんだけど、久方ぶりに
会えないかしら？」

30年前に地方の支店で一緒に
仕事をしていた同僚から、ある
日突然、電話がかかってきた。
聞けば、数年前からご家族と東
京に住んでいらっしゃるようで、東
京でいくらかでも会う機会があっ
たらうに、旅先で人は気持ち
が開放的になるといふことが、
近くにかつての仕事仲間がいる
ことを知り、思わず電話をした
らしい。短い時間ではあったが、

30年ぶりの再会を果たし、旧交
を温めることができた。地方に
勤務しているメリットの一つか
もしれない。

最近、「三十数年ぶり」とい
う報道をよく見かける。今年の
春闘は、賃上げ率が前年を上回
り、34年ぶりの高水準になると
いう。物価や地価も30、40年ぶ

あれから30年：

りの上昇率となっている。金融
市場では、昨年7月、日経平均
株価が35年ぶりに最高値を更新
したほか、ドル・円相場も昨年
37年半ぶりの円安水準となっ

かちまい 論壇

た。日本銀行は、昨年7月、政
策金利を0・25%程度とし、そ
れ以来、「金利のある世界」と
なった。本年1月には政策金利
をさらに0・25%引き上げ、0
・5%程度とした。この水準は
17年ぶりだが、仮にさらなる引
き上げがあると30年ぶりの水準
となる。

昨年12月、日本銀行は、19
90年代後半以降の金融政策運
営について、多角的にレビュー
した結果を公表した。この間の
大規模な金融緩和は、デフレで
はない状況の実現に一定程度貢
献したが、非伝統的な金融政策
手段には副作用があり、
伝統的な金融政策を完全
に代替することはできな
いので、可能な限りゼロ
金利制約に直面しないよ

「失われた30年」と言われる
ことがある。明確な定義がある
表現ではないと思うが、「賃金
よりも雇用」が優先され、付加
価値を高めるよりも、コストカ
ットを進める縮み志向が長期に
わたり継続していたように思
う。その結果、この30年で日本
の国際的な位置付けは大きく変
化した。例えば、労働生産性、
1人当たりGDP（国内総生
産）、平均賃金などのランキン
グは大きく低下した。今となっ
ては想像し難いかもしれない
析だけでなく、定住情報を含め

うな政策運営が望ましいとして
いる。
今後、「賃金と物価の好循環」
を強め、定着させていくことは
できるだろうか。本年4月入り
後の米国の関税政策は、不確定
性の高まりを通じて、世界およ
び日本の経済を下押しする方向
に働くと考えられる。事実、先
行きの経済予測を下方修正する
動きも見られ始めている。今後、
戦略を見直す動きも出てくるこ
とが予想されるので、データ分
析だけでなく、定住情報を含め

た丁寧な情報収集が必要になら
う。

十勝は、内需主導型の経済構
造であるため、近年の円安メリ
ットを享受しにくく、人手不足
を含め、逆風の方が強く感じら
れることが多いかもしれない。
ただ、十勝には、農業王国・食
料供給基地としての強さがある
ほか、最近でも農畜産物に係る
管内農協年間取扱高の最高記録
更新、日高山脈襟裳十勝国立公
園の誕生など、明るい話題が数
多くある。民間の力で開拓し、
道を切り開いてきた持ち前のチ
ヤレンシ精神で、物事を前に進
めることができる潜在的な力は
高いように思われる。陸別町の
「しばれフェスティバル」のよ
うに、「日本一寒い町」という
逆境を逆手にとるしなやかなた
くましさもある。
今後の金融経済環境のさまざ
まな変化に、十勝がどのように
対応していくのか、しっかりと
モニタリングするとともに、日
本銀行の活動の理解促進に貢献
していきたいと思う。